

科目名	保育の計画と評価	担当教員	仲宗根 由美
科目コード	330001	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

テキスト「教育・保育カリキュラム論」＜中央法規＞による

- | | |
|---|-----------------------|
| 1. 保育における計画の意義 | 8. 保育所・認定こども園の指導計画の作成 |
| 2. 日本におけるカリキュラム基礎理論 | 9. 保育の評価 |
| 3. 子ども理解に基づく保育の環境 | 10. 指導計画の書き方 |
| 4. 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型こども園教育保育要領の性格と位置づけ・改定内容 | 11. 0歳児の指導計画 |
| 5. 幼稚園の教育課程の編成の基本原理と方法 | 12. 1歳以上3歳未満児の指導計画 |
| 6. 保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原理と方法 | 13. 3歳児・4歳児の指導計画 |
| 7. 幼稚園の指導計画の作成 | 14, 5歳児の指導計画 |
| | 15. 小学校との接続 |

【試験対策ポイント1】

- 子どもの「主体性」が尊重されるための「計画性のある保育」はなぜ必要か？
- 計画の作成の基本を押さえ専門職として「省察」する力の必要性をどう活かすか？
- 発達の理解に加え子どもの育つ環境を専門的な立場から見据える多角的視点とは？
- 「アクティブラーニング」の視点から「PDCA サイクル」で保育を探り、教育・保育の質向上につなげるにはどのような考え方・実践が必要か？

【試験対策ポイント2】

「子どもの育ちの保障」のために重要な小学校との接続について、その方法・実態について理解を深めるにあたっての考え方。

- なぜ？接続が必要か？ ●どのような接続手段・方法があるか？
- 接続するにあたりどのような配慮が必要か？（個人情報の扱いの観点等）
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についてどう捉えるか？

授業修了時の達成目標

- 子どもの「主体性」が尊重されるための「計画性のある保育」の必要性を学び、保育の全体的な計画の作成の基本を押さえ専門職として求められる「省察」する力の必要性を学ぶ。
 - 「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」等の変遷について理解しカリキュラムのあり方を理解する。
 - 「アクティブラーニング」の視点から「PDCA サイクル」で保育を探り、教育・保育の質向上について学ぶ。
 - 保育所・幼稚園・認定こども園等における指導計画の作成において、その必要性と留意事項について事例や実績を交えながら学ぶ。
 - 0 歳児・1 歳以上 3 歳未満児・3 歳以上児の指導計画を作成するにあたり、発達の理解に加え子どもの育つ環境を専門的な立場から見据える多角的視点を学ぶ。
 - 「子どもの育ちの保障」のために、小学校との接続の重要性を知り、その方法・実態について理解を深める。
- ※自身の持っている「保育理念」「めざす子ども像」を達成し実現するために必要な専門的保育知識を備え深めていく。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 教育・保育カリキュラム 論	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	社会的養護Ⅱ	担当教員	須藤 竜
科目コード	(スクーリング)330002	授業形態	演習
単位数	Ⅰ 単位	必修・選択	必修
コマ数	Ⅹ コマ	時間数	Ⅹ 時間
授業概要 (スクーリング)			
1) 子どもの権利擁護 2) 社会的養護における子どもの理解 3) 社会的養護の内容①日常生活支援 4) 社会的養護の内容②心理的支援 5) 社会的養護の内容③自立支援 6) 施設養護の生活特性および実際①乳児院等 7) 施設養護の生活特性および実際②障害児施設等 8) 家庭養護の生活特性および実際 9) アセスメントと個別支援計画の作成 Ⅹ0) 記録および自己評価 ⅩⅩ) 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 Ⅹ2) 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 Ⅹ3) 社会的養護におけるソーシャルワーク(知識・技術とその応用) Ⅹ4) 社会的養護における家庭支援 Ⅹ5) 今後の社会的養護の課題と展望			
授業修了時の達成目標			
保育士として、社会的養護(家庭養育を含め)について以下を目標とする Ⅹ.社会的養護の基礎的な内容について理解し、考察する 2.社会的養護の実際について理解する、考察する 3.子どもと家族への多様な支援を理解する、考察する 子どもへのあらゆる支援のあり方を理解する、考察する			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 社会的養護Ⅱ (中央法規出版)	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	子育て支援	担当教員	真栄城 かの子
科目コード	330003	授業形態	面接
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

保育者として必要な子育ての知識や保護者の子育て上の心配や悩みの解決への支援の仕方、虐待の予防、保護者支援のために必要な保育技術や制度、政策、専門機関との連携等、子どもの幸せを念頭に置き、保育者として理解しておくことを演習などを通して学ぶ。

授業修了時の達成目標

- ・子育て支援の意義と原則について理解し、保育者の使命感や倫理観を確かなものにする。
- ・保育士が保護者に対して行う専門性を背景とした保育相談支援について、その特性と展開について理解する。
- ・子育て支援の内容と方法及び技術を実践事例等を通して具体的に理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 子育て支援	スクーリング	100.0%	

科目名	保育実践演習	担当教員	大城 克也
科目コード	330004/330005	授業形態	印刷/演習
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

1. これまでの学修を活かし、園外保育の計画とシミュレーション。(スクーリング)

- ① 園外保育を想定し、保育所保育指針を活用し計画を立てる。
- ② 各役割分担をし、それぞれの内容を計画する。
- ③ 実際に園外保育の実施を行う。
- ④ 振り返りを実施する。

2. 自己分析を行い具体的な目標の設置。(レポート)

- ① 保育における自分の能力を抽出する。
- ② 能力を保育所保育指針の視点で考える。
- ③ 目標とする保育士像を具体的に上げる。

3. 子どもの遊びについて考える(試験)

保育者としての役割とは(試験)

【試験対策ポイント1】

1. 保育・教職実践演習テキストの第7章の5～8で多様な視点で「遊び」について記載されています。

これらの内容を読み、参考にしてください。

2. 参考にした後に、あなたが子どもの「遊び」で大切にしたい事を理由と一緒に述べてください。

【試験対策ポイント2】

1. 保育・教職実践演習テキストの第4章をよく読んでください。

2. テキスト第4章の「養護」「教育」をもとに書き始め、次に保育者として仕事、使命や責任についてまとめてください。

授業修了時の達成目標

1. 保育所保育指針を読み込み、保育士の役割、それぞれの課題の視点から保育のねらい及び内容を理解する。
2. 保育の目的を理解し、計画からシミュレーションを通して実践力を身につける。
3. これまでの自分の学修や経験を振り返り、具体的な目標を立て今後の質向上に繋げる。
4. 事例等を通して、保育における自分の思いをしっかりと持つ意識をつける。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
保育・教職実践演習テキストノート	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	
	スクーリング	100.0%	

科目名	こどもの健康と安全	担当教員	水川 知恵
科目コード	330015	授業形態	面接（スクーリング）
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

・保育における健康および安全の管理について、具体的に理解する

子どもの成長・発達や生理機能、健康と安全についてテキスト、資料、DVD、グループ討議を通し具体的に理解する。また、子どもの事故の特徴、事故防止と安全教育においては、いざという時の応急処置として異物除去、アレルギーやアナフィラキシーショックへの対応、エピペン講習、心肺蘇生法や AED の取り扱いについて演習を行う。

・慢性疾患・アレルギー疾患、医療的配慮を要する子どもへの対応について理解する

小児期の疾病や健康課題を学習し、子どもが集団との関わりや取り巻く環境との相互作用で成長発達することを理解し個別的な愛情あふれる保育について学習する。また、医療的配慮を必要とする児の保育園での生活や他児、保育士との関わりについて事例紹介し、インクルーシブ保育への理解を深める。

・地域で暮らす医療的ケア児と家族について理解する

障害や疾患により医療的ケアを要する児の地域生活をサポートする Kukurū プラスの活動を紹介し、保育士の役割や専門職との連携について理解を深める。また、家族の心理について学び、保護者と協力しながら保育環境づくりについて理解を深める。

レポート設題Ⅰ（スクーリング受講後に提出すること!!）

医療的配慮を要する子どもの保育について

レポート作成の手引き

近年、医療的ケアが必要な子どもが保育所やこども園に入園する機会が増えています。しかし、子どもたちが通う保育所やこども園は、まだ受け入れ経験は少なく、体制が十分に整っているとは言えません。そんな中、あなたが担当するクラスで医療的ケアが必要な子どもを受け入れることもあるかと思います。

全国で行われている医療的ケアが必要な子どもの保育の実践例をもとに、受け入れる際の困難、不安な点、それに対する解決策、子どもたちの相互作用などあなたの考えも含め 1500 文字程度でレポート作成をお願いします。

授業修了時の達成目標

- 子どもの成長発達や発達段階における健康課題や事故の特徴を理解し、安全管理や事故への対応ができる。
- 地域で暮らす医療的ケア児について学び、障害や疾病にかかわらず子ども同士が安全に成長発達できる保育環境づくりについて提案することができる。
- 緊急時対応の演習を通して、保育現場における安全対策や緊急時対応を考慮した環境づくりができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 子どもの健康と安全 （中央法規出版）	スクーリング	100.0%	

科目名	地域福祉の理論と方法	担当教員	大庭 荒
科目コード	330006	授業形態	印刷
単位数	2 単位	必修・選択	選択

授業概要 / 試験対策ポイント

【科目のねらい】

2000 年、社会福祉事業法が社会福祉法として法律名称が変更され、第 1 条の法の目的においては、「地域における社会福祉（地域福祉）の推進を図る」と明確化された。個人の尊厳、地域自立支援、支え合う地域づくりの総体となる地域福祉の意義を理解する。

1. 地域福祉システムのキーワード：共生社会、参加型地域福祉、協働型地域福祉、バリアフリー
2. コミュニティと地域福祉：地域社会の生活課題、生活圏域と福祉圏域、まちづくり
3. 地域福祉の主体形成と住民参加：福祉教育、地域協働、住民参加の形態
4. 地域福祉のあゆみ：戦前～戦後の社会事業、地域福祉の理論、地域福祉の対象
5. 地域福祉をとりまく資源、財源：社会資源、財源、地域福祉サービスの経営、地域福祉へのサポート
6. 地域福祉を推進する専門職と組織：

ニーズの捉え方、コミュニティーソーシャルワーク、ソーシャルサポートネットワーク、社会福祉協議会

民生委員・児童委員、NPO・ボランティア、当事者組織

7. 地域福祉計画の方法と展開：地域福祉計画の本質、住民参加、自治体計画、計画の評価

8. 諸外国の地域福祉

9. 地域福祉の展望：地域福祉の 3 つのつながり、5 つの C、地域包括ケアシステム

【試験対策ポイント1】

○テキスト内容を自身の言葉で置き換えて理解し、試験に臨んでください。

○住民主体、総合的視点、地域の特性、生活の共同性を中心にまとめてください。

○自身が作成したレポートを読み返し、十分に理解することが解答のポイントです。

【試験対策ポイント2】

○テキスト内容を自身の言葉で置き換えて理解し、試験に臨んでください。

○5 つの項目列挙だけでなく、必ず説明を加えてください。

授業修了時の達成目標

- 地域の問題・課題を把握し視野の広い考察力を習得する。
- 地域福祉の対象となる地域住民が抱える生活課題と向き合う意識を高める。
- 地域福祉理念の実現と社会保障制度を関連づけて説明できる。
- 地域福祉を推進する組織について説明できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
地域福祉の理論と方法 第2版 (ミネルヴァ書房)	試験	100%	
	レポート	100%	

科目名	福祉ボランティア実践	担当教員	大山 望
科目コード	330008	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修
授業概要 / 試験対策ポイント			
1. ボランティア活動 (1) ボランタリズム (2) ボランティア活動の範囲 (3) ボランティア活動の推進 2. ボランティア学習 (1) 福祉教育とボランティア学習の関係 (2) ボランティア活動の学習方法・学習評価 3. ボランティア実践 (1) 地域分野 (2) 高齢者分野 (3) 障害者分野 (4) 児童分野 (5) 国際貢献分野 4. ワークブック (1) 記録 (2) 評価 (3) スーパービジョン (4) 研修 【試験対策ポイント1】 『第1章 ボランティア活動とは 1 ボランティア活動の理念と役割—ボランティア活動の目指すもの』を熟読・参考に 【試験対策ポイント2】 『第1章 ボランティア活動とは 2 ボランティア活動の基本的性格・定義』を熟読・参考に 【試験対策ポイント2】 『第3章 ボランティア活動の推進』を熟読すること。 ① ボランティアコーディネーターの定義 : テキストを参考に(20点) ② ボランティアコーディネーター3つのタイプ: テキストを参考に(50点) ③ ボランティアコーディネーター7つの役割 : テキストを参考に(30点)			
授業修了時の達成目標			
ボランティアの基盤となるボランティア活動、市民参加や市民的自由、ボランタリズムの理念について理解する。 1. ボランタリズムを理解し、ボランティア活動の理念と役割を説明できる。 2. 社会福祉分野、保育現場、地域等でのボランティア活動の実践を通じ、ボランティアの効果を説明できる。 3. ボランティア活動を通じ、福祉サービス利用児・者とのコミュニケーションを図ることができる。 4. 自身が所属する組織(児童福祉施設等)にてボランティアコーディネーターの役割を担うことができるようになる。			
教科書・教材	評価基準	評価率	その他
ボランティアのすすめ—基礎から実践まで	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	保育ソーシャルワーク論	担当教員	仲宗根 政貴
科目コード	330009	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

【科目のねらい】

ソーシャルワークの本質は「クライアントとその人を取り巻く社会環境の接点（インターフェイス）への介入」である。そのプロセスでは、相対するクライアントとかかわり、クライアント本人のめざすゴールへと伴走するソーシャルワーク専門職の姿勢と態度を伴ったソーシャルワーク実践が重要であり、その実践を展開するためには、ソーシャルワークにおける「クライアント」と「社会環境」に対する「知識」と、実践を成り立たせる「技術」が必要となる。

本科目（下記、第1章～第7章）を通して、ソーシャルワーク専門職のひとりとしての保育者に求められるソーシャルワーク実践について触れ、概観し、ソーシャルワーク実践に不可欠な「知識」、「技術」を学び、ソーシャルワーク実践領域における子ども支援、保護者支援につなげることを本科目のねらいとする。さらには、本科目の学びを通して、保育者自身の「自己覚知」につなげ、保育実践者同士含め、専門職同士がともに支え合う「支援者支援」の醸成にもつなげてほしい。

第1章：保育者支援とは何かを考える（keyword：エンパワメント、保護者の多様なニーズを探る）

第2章：保護者との適切なかかわり（keyword：保育者自身の価値観や偏見を知り自己覚知に触れる）

第3章：保護者の心に寄り添う（keyword：保護者とのかかわり、保育者の共感性）

第4章：保育者のソーシャルワーク実践（keyword：保育者の専門性、ソーシャルワークとは何か）

第5章：保育士に必要なコミュニケーションスキル（keyword：言語的・非言語的コミュニケーション）

第6章：特別な支援が必要な子どもの保護者支援（keyword：自己決定を支えるソーシャルワーク実践）

第7章：保育所保育指針から保護者支援・子育て支援を読み解く（keyword：保護者支援と子育て支援）

【試験対策ポイント1】

- ・保育実践者として、なぜ子どもや保護者との信頼関係が必要かについて、テキストを通して理解しておくこと。
- ・その信頼関係を構築する上で、どのようなソーシャルワークの知識や技術が必要かについて、テキストを通して理解しておくこと。
- ・保育実践者として子どもや保護者と向き合いかわるなかで、あなた自身が何を大切にしているか、向き合いかわりたいかを自己理解しておくこと。
- ・上記を踏まえて、あなた自身の考えを言語化すること。

【試験対策ポイント2】

- ・保育実践者として、仮に苦手感のある子どもや保護者と向き合いかわった際、どのような苦手感があるのか、そのときの感情や価値観について俯瞰してみる。
- ・苦手感があることは悪いことではないことをまず押さえること。その上で、苦手感そのものに焦点をあてるのではなく、苦手感があるその背景を自己洞察してみる。
- ・保育実践者として子どもや保護者と向き合いかわるなかで、どのような専門性（ソーシャルワークの知識、技術）があれば、その苦手感に対して向き合いかわれるかをイメージしてみる。
- ・上記を踏まえ、あなた自身の考えを言語化すること。

※テキスト中心に考察する科目試験であるが、よりソーシャルワークについて触れることができる参考図書として以下を挙げる。

- ・尾崎新編『「ゆらぐ」ことのできるカーゆらぎと社会福祉実践―』誠信書房、1999 年
- ・柏木昭・佐々木敏明『ソーシャルワーク 協働の思想“クリネー”から“トポス”へ』へるす出版、2010 年
- ・狭間香代子『社会福祉の援助観―ストレングス視点・社会構成主義・エンパワメント―』筒井書房、2001 年

授業修了時の達成目標

【ソーシャルワーク実践における「知識」「技術」を根拠とした「理論知」の醸成】

- ・ソーシャルワーク実践にかかる知識（エンパワメントやソーシャルワーク実践プロセス等）を説明できる。
- ・ソーシャルワーク実践にかかる技術（バISTECKの 7 原則やコミュニケーションスキル等）を説明できる。

【ソーシャルワーク実践における「ソーシャルワーク専門職」としての「実践知」の醸成】

- ・ソーシャルワーク専門職としての自身の価値観、クセを知り、自己覚知ができる。
- ・自己覚知の上で、自身がどのようなソーシャルワーク専門職として実践したいかを言語化できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
『保育士・幼稚園教諭のための保護者支援～保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援[新版]』風鳴舎、2016 年	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	心理学理論と心理学支援	担当教員	赤嶺 遼太郎
科目コード	330007	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

人間は複雑な存在である。これは心理学が確認できた最大の事実である（東江平之，1996）。現代の心理学は、人間とは何か、という問いに答えることを中心課題とし、人間の性質や体と心の仕組みを明らかにしてきた。心理学を初めて学ぶ人は、心理学研究で明らかにされてきた心のメカニズムや成り立ちについて学ぶと同時に、まず自分自身について理解を深めることになる。また、対人支援職に就く者は、自分自身の理解とともに、支援される相手を理解しようとする態度を持つことが重要な課題となる。

現代心理学は、人を理解することについてどのような考え方を提供するだろうか。その内容は教科書の各章に沿って理解しやすいように紹介されている。たくさんある専門用語も分かりやすく解説されているので、これらを自分の生活に当てはめながら理解するようにしてほしい。レポート課題が与えられるが、レポートの作成は教科書の知識だけでは不十分と思われるので参考書に挙げている書籍も参照して作成するとより理解が深まる。

【科目試験対策ポイント】

レポートを作成した際にまとめたことが答えとなる。レポートにしっかり取り組むことが試験対策となる。

授業修了時の達成目標

人の行動やモノの見方、考え方、感情の動きについての心理学的な理解の仕方を、自分に引きつけて「ああ、こういうことか」と分かった体験を得られるようにしてほしい。そうすることで、行動する自分、考える自分、感情的になっている自分を客観的に見つめる別の自分があることに気づくだろう。そのような客観的な自分に気づくことで、支援者として相手にしてあげようと思っていることが相手に対して本当に良いことなのかどうか、「してあげたい」「助けてあげたい」という思いが、自分の中のどのような心の動きに左右されているのかについて考えることが出来るようになる。そうすることで、相手が望まない独りよがりな支援や押しつけの支援行動をとらないように自分をコントロールでき、相手に害を与えない安全で安心な多くの人にとって納得できる支援を提供することが出来るだろう。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
心理学理論と心理学支援（第2版）	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	発達障害児論	担当教員	仲間 優子
科目コード	330010	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要 / 試験対策ポイント

【学習の目的・ねらい】

幼児期から児童期にかけての発達とその障害について理解を深める。

乳幼児期から青年期の各時期における障害の特性や支援の在り方について理解し、支援方法の基礎的な知識について学習する。

- 1 乳幼児期の発達課題と障害特性
- 2 障害児保育の課題
- 3 障害の特徴と保育の実際
 - Ⅲ 知的障害の特徴と保育での支援
 - Ⅴ 注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援
- 4 障害児保育の体制づくり
 - Ⅷ インクルーシブ保育とは
 - Ⅸ 保育所・幼稚園での支援体制
- 5 TEACCH(ティーチ)プログラム

【試験対策ポイント1】

知的障害児の認知の特徴を踏まえた支援のポイントをあげてまとめましょう。

【試験対策ポイント2】

- ・TEACCH における構造化について理解しましょう。
- ・4つの構造化について説明しましょう。

授業終了時の達成目標

幼児期から青年期にかけての発達の特徴について理解を深める

発達障害や軽度知的障害の特性を知り、その特性を踏まえた支援体制について理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
発達障害のある子のサポートブック	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	保育の手話	担当教員	新里 武太
科目コード	330011	授業形態	面接
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

1 日目

- ①聴覚障害の基礎知識 1 (聴覚障害とは、言葉の獲得について)
- ②聴覚障害の基礎知識 2 (聴覚障害の種類、難聴者、中途失聴者、ろう者の言葉について)
- ③手話表現 1 (指文字・あいさつ・自己紹介・保育時に使える手話等)
- ④手話表現 2 (簡単な文章の表現等)
- ⑤手話表現 3 (名前の表現方法)

2 日目

- ①前日の復習や質問への対応
- ②手話ゲームや聴覚障害があっても参加出来るゲームを楽しむ
- ③手話ソングを表現してみる 1
- ④手話ソングを表現してみる 2
- ④まとめ

授業終了時の達成目標

聴覚障害を理解する。

手話で自己紹介とあいさつ、簡単な文章の表現を行うことができる。

楽しく手話ソングや手話を使ったゲームをする事ができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
手話ソングブック	スクーリング	100.0%	

科目名	楽しいリトミック	担当教員	奥原 友紀乃
科目コード	330012	授業形態	実技
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

エミール・ジャック＝ダルクローズが創案した音楽を使った教育法「リトミック」の3つの柱(下記○)を体験しながら幼児教育への繋がりを学ぶ。保育士自身が体験を重ねることから感じる事、考える事、想像すること、創造していく楽しさを見つけ出し、表現したいという気持ちなどを育む。

○リズム運動……全身を使って音楽を動きで表現する。

○ソルフェージュ…音楽を聴く耳を育てる。また、歌うこと(声、楽器など)を重視する。

○即興……ピアノだけでなく、声や打楽器、身体の動きを使う。

1日目		2日目	
・リトミック講座・実技 ・基本の動き(教科書より) →ビート、拍、指揮、 その他 ・ピアノ演奏の体験 ・確認テスト(講座・動き)	・リトミック体験 ・DVD(授業者実践より) 「心と身体」について ・動きからリズム譜へ ・動きの表現方法 ・確認テスト(講座・動き)	・リトミック体験 ・DVD 実践より(プラス ティック・アニメについて) ・グループ活動 (指導案作成→発表等) →確認テストとする	・リトミック体験 ・絵本を使って またはお話作り (個人、グループ) ・確認テスト(創作及びこれまで のまとめ)

※1～2日目それぞれ必ず確認テストを行う(内容はその日の授業から課題が出る)。

※1～2日目の内容は全て関連させながら進めるため、資料等は毎時持参する事とする。

(特に指導案作成時や最終まとめにおいて必要である。)

授業終了時の達成目標

保育士自身が、リトミックを体験したことから表現することへの興味を持ち、保育の現場に於ける指導案作成や実践が出来るようにする。また、リトミックの本質を学ぶ上で、体験を蓄積する大切さ、学び続ける大切さに気づかせたいことや、何より自身が「楽しかった」と思える体験をさせたい。リトミックの内容が、幼児教育と繋がり、幼児との関わりの中で楽しんだり、幼児の表現したい(動きや内面)という気持ちを育める保育士として育成する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
教科書○1～5歳のかたんリトミック(ナツメ社) 担当講師が参考にする書等 ・『リズムと音楽と教育』エミール・ジャック＝ダルクローズ著 2003年(全音楽譜出版社) ・『こちら心の音楽教室』酒井徹 著(マイクロコスモス) ・『窓ぎわのトットちゃん』黒柳徹子著(講談社文庫) ・『クラシックの時間ですよ!』青島広志著(Gakken)CD付 ・『改訂ポケットいっぱいのうた』(教育芸術社)	スクーリング	100.0 %	動きやすい 服装で受講 してください。
	(課題・実技試験)	(50%)	
	(指導案作成・模擬授業)	(25%)	
	(授業態度)	(25%)	

科目名	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	担当教員	仲間 優子
科目コード	330013	授業形態	実習
単位数	2 単位	必修・選択	必修
実習日数	11 日間		

授業概要（実習）

〔保育実習Ⅱ〕

【実習の段階】

1. 観察実習(実習初日)
2. 参加実習(実習 2～4 日目)
3. 部分実習・責任実習(実習 5 日目～10 日目～)

【実習の内容】

1. 保育所(園)のデイリープログラムを実践し、保育の技術を習得する。
2. 乳幼児の発達段階を理解するとともに、個人差及び発達の遅れた乳幼児への個別的配慮について学ぶ。
3. 部分実習や、責任実習の指導計画を立案し、積極的に実践する。
4. 保護者との連携、子育て支援について具体的な実践方法を学ぶ。
5. 地域社会とのかかわりや、連携の大切さを理解し、その方法について学ぶ。
6. 保育者に求められる資質、能力、技術を理解し、自己の課題を明確にする。
7. 保育者としての職業倫理を深める。
8. こどもの最善の利益について考え、その配慮について学ぶ。

〔保育実習Ⅲ〕

- ※「保育実習Ⅲ」を履修するためには、必ず「保育実習Ⅲ事前指導」を履修しなければならない。
 - ※ 実習を希望する社会福祉施設より内諾を得て、その旨学校に報告し、「保育実習Ⅲ」を行うこと。
 - ※ 「保育実習Ⅲ」修了後は、直ちに実習日誌を実習先へ提出すること
 - ※ 「保育実習Ⅲ」修了後は、必ず「保育実習Ⅲ事後指導」を履修しなければならない。
- 保育実習Ⅲの目的と実習修了時の達成目標は以下の通りである。

保育実習Ⅲの目的	実習修了時の達成目標
職場を知る	・法人の概要、組織、理念、利用者（児）や関係者等について理解する ・職場の一日の流れを理解し、積極的に関わる ・利用者（児）および関係者等のニーズを理解する ・リスクマネジメント等について理解する - など
職種を知る	・どのような職種が働いているのかについて理解する ・利用者を中心としてどのような職種が関わっているのか理解する ・保育士はどのような業務、役割があるのか理解する - など

保育を知る	・保育者としての職業倫理を理解する ・利用者(児)の「wellbeing:最善の利益」について考える ・保育者として、現場ではどのようなスキルが展開されているのか理解する 【自己覚知、利用者及び家族理解、環境理解及び設定、個別支援計画、地域の繋がり(ミクロ「例:個」、メゾ「例:集団」、マクロ「例:社会」)】 ・対象者(児)を中心としたアプローチ(エンパワメント、エコシステム等)について理解する ・多(他)職種連携、チームワークについて理解する ・保育者として、利用者(児)の家族とどのように関るか理解する ・保育士に求められる資質・能力・技術を振り返り、自己の課題を明らかにするなど
授業修了時の達成目標	
〔保育実習Ⅱ〕 ①保育所(園)の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 ③今まで学んだ教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ④保育の計画、実践、観察、記録について実践し、理解ができる。 ⑤保育者の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつける。 ⑥保育者としての自己の課題を明確化する。 〔保育実習さん〕 「保育実習Ⅲ」では保育所または保育園以外の社会福祉施設において、関連科目および保育実習Ⅰで得られた知識や技術を踏まえ、より高い専門性を身につけ、利用者(児)の「最善の利益」をより具体的に考察し、実践(配慮・対応等)できる者を目指す。	
教科書・教材	評価基準 評価率
※テキスト購入なし 新・基本保育シリーズ 保育実習 (中央法規出版)	実習 100.0%

科目名	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	担当教員	仲間 優子
科目コード	330014	授業形態	演習
単位数	2 単位	必修・選択	必修
コマ数	20 コマ	時間数	30 時間

授業概要（スクーリング）

〔保育実習指導Ⅱ 前半〕

1.保育実習に向けての準備や心得構え

- ①実習時の心得の確認。
- ②保育者としての態度、資質について。
- ③職員、園児、保護者、家族に対する態度やマナー。
- ④オリエンテーション、ボランティア体験の目的、内容。

2.保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの違い

- ①保育所（園）の機能の理解。
- ②子育て支援について。
- ③地域連携について。

3.実習日誌作成

- ①日誌記入の理解。応用。

4.指導案作成

- ①作成の方法。理解。応用。

5.実習までの学習課題の明確化・自己学習計画

6.模擬保育

- ①絵本、紙芝居の選び方、読み方指導。
- ② デイリープログラムの理解。（ロールプレイ）
- ③ 児童文化財作り、演習の方法。

〔保育実習指導Ⅱ 後半〕

1.振り返りと評価

- ①これまでに学んだ理論や技術を、実践に活かすことが出来たか。

事前学習から実習を終えての振り返り。

(ア)心構えと態度、マナー (イ)遊びの指導(年齢と発達段階、障がいの特徴などを踏まえて) (ウ)園児、保護者、職員、家族、職員とのかかわり。(エ)指導案、実践内容 (オ)実習日誌の記録

- ②実習先の評価と自己評価の違いを検討し、客観的に自分自身を分析する。

2.課題設定と資質強化

①自己の課題を設定し、次につなげ、資質強化を図る。

保育者とは何か。保育者としての役割とは何か。自分に何が出来るのか。どのような保育者になりたいかをまとめるとめる。

3.発表 まとめ

それぞれの振り返りを発表。

異なる実習先の共通理解。シェア。

4.お礼状作成について

[保育実習指導Ⅲ]

※「保育実習Ⅲ事前指導」は、「保育実習Ⅲ」を予定している学生を対象にスクーリングとして開講される。

※「保育実習Ⅲ」を履修するためには、必ず「保育実習Ⅲ事前指導」を履修しなければならない。

※「保育実習Ⅲ」中に記録する『実習日誌』は自己管理し、実習先へ提出すると同時に各自でコピーを残しておくこと（「保育実習Ⅲ事後指導」で行われる実習報告会で有効的であるため：実習のまとめ）

※「保育実習Ⅲ」修了後は、必ず「保育実習Ⅲ事後指導」を履修しなければならない。

<保育実習事前指導Ⅲ（2日間）の授業内容>

○実習先の概要等について調べる

○実習先での活動（特に余暇活動）において実習生が提供できるネタを考え、発表する

○実習先で必要なスキル等（車いす利用、ガイドヘルプ、食事介助含む）について体得する

⇒「保育実習Ⅲ事前指導」の2日目にて食事介助を行うため、以下を準備すること

・学生自身が食べるモノ（プリン or ゼリー or ヨーグルト）1個

・学生自身が食べるために使うスプーン（金属 or プラスチック）

・タオル（手ぬぐい：長さのあるもの）

・イヤホン

<保育実習事後指導Ⅲ（2日間）の授業内容>

○実習先で実践した活動（特に余暇活動）について、

まとめ、報告書作成、プレゼンテーション資料を作成する

○「実践報告会」を実施する

授業修了時の達成目標

〔保育実習指導Ⅱ 事前〕

保育実習Ⅰを通して得た知識、技術を統合し、さらにレベルアップした実習を行うことが出来るようにする。

実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、高度な保育実践力を培う。

実習日誌や指導案作成方法の理解をさらに深めると共に保育スキルの演習を行う。

〔保育実習指導Ⅱ 事後〕

自己の実習過程を振り返り、学習の成果を確かなものにし、保育者としての自覚を持つ。

評価から客観的に自分自身を分析した上で、自己の課題を設定し、次の学習へとつなげる

〔保育実習指導Ⅲ〕

「保育実習Ⅲ」の目的と実習修了時の達成目標を理解する。

教科書・教材

評価基準

評価率

スクーリング

100.0%

※購入テキストなし

新・基本保育シリーズ 保育実習

(中央法規出版)